

# 会員企業間の連携と AI活用推進を強化



青年部会（信州ZukuDa's）を中心とした  
後継者の育成事業に取り組む

長野県シートメタル工業会 会長

小坂 博志 氏

（株式会社 中野屋ステンレス 代表取締役会長）

長野県シートメタル工業会は会員企業間の親睦をはかり、経営・教育等の業界に関わる諸問題を研究する業界団体として1985年に発足、2025年に設立40周年をむかえた。現在の会員企業数は47社で発足当時から大きく変わっていない。

これまでは「会員企業の繁栄と業界の発展のため、工業会会員の後継者および幹部社員等の次期育成と向上を目指し、企業・技能・経営などに関わる諸問題を研究し、企業の継続発展をはかる」という目的のため、技能検定をはじめ経営、人材育成、技術の革新等のための各種セミナー、会員相互の情報交換等に活発に取り組んできた。さらに、青年部会（信州ZukuDa's）を中心とした後継者の育成事業にも積極的に取り組み、業界の発展に貢献してきた。

しかし、社会経済の変化によって先行きへの不確実性が増

す一方で、日本の総人口は減少局面に入っている。それにもない労働人口も減少傾向で、人手不足が深刻さを増すとともにIoT、ロボット、AIなどの普及によって製造現場のDX化が急速に進んできた。

さらに2011年の東日本大震災を経て、地球温暖化や資源の枯渇などの環境問題、資源価格の高騰や変動、レアメタルなどがクローズアップされるようになり、省エネ・環境配慮が求められるようになった。そうした中で工業会活動にも大胆な改革が求められるようになっている。

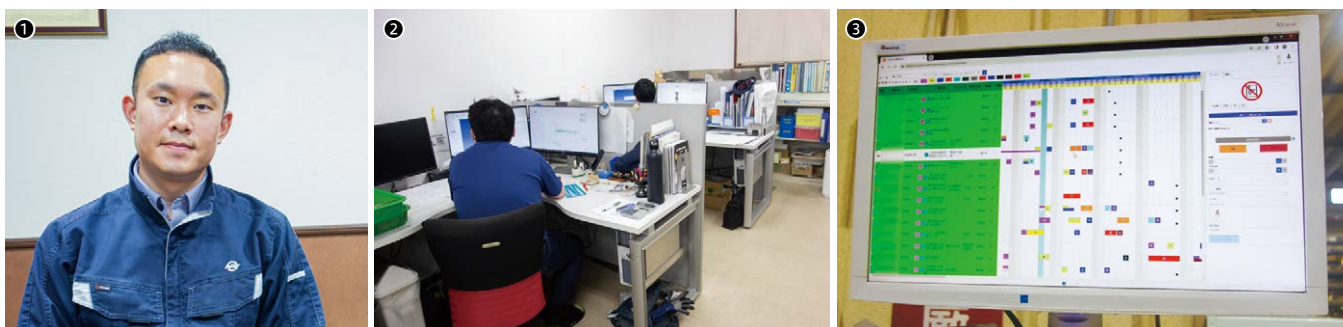
そうした状況の中、前任の塚田道氏（株ツカタ社長）から工業会会長のバトンを引き継いだ小坂博志氏（株中野屋ステンレス会長）に就任の抱負と今後の工業会活動の在り方、さらには業界の先行きについて話を聞いた。

## ■力を併せて人材育成や後継者問題に取り組む

— 小坂会長は、2025年に設立40周年をむかえた長野県シートメタル工業会の会長に就任されました。

小坂博志会長 全国の先駆けとして発足した工業会ですので、

緊張して就任をお引き受けしました。私は平出正彦元会長（株平出精密会長）・塚田前会長のときに役員として工業会運営に関わりましたが、会長という重責を担うのは大変だと思っていました。会員数はそれほど多くはないですが、組織とし



①小坂賢一社長／②プログラマ5名が3次元CADを駆使してバラシ・展開・プログラム作成を行う／③加工着手情報を見える化する端末

てはうまく機能してきました。発足時にはお互いライバル同士ということもあって、足の引っ張り合いのようなこともあったと聞きます。しかし、現在はそれぞれの企業の設備内容や特徴がわかっているので、得意分野を融通し合って受注した仕事を回すこともあります。ライバル企業の集まりではなく、“仲間”という意識で力を合わせてうまく回しています。

今後は会員相互の仕事のやりとりや得意分野の融通をさらに活発化させて、今まで工業会の行事にあまり参加していなかった企業にも参加してもらい、交流・協力の場をさらに広げていきたい。

#### ——就任の抱負、課題についてお聞かせください。

**小坂会長** 後継者問題については、工業会会員企業の半数の事業承継者が参加する青年部会（信州ZukuDa's）が活発に活動しており、事業承継もうまくいっているようです。親会としても予算を組んで後継者育成に力を入れていきたい。

人材育成については、技能検定の「工場板金」受検者向け講習会には毎年40名の定員いっぱいの参加者が集まり、合格者も多いです。3年前から始まった「レーザー加工作業」にも当初から参加しています。また、長野で始まった「板金図面検定試験」（任意資格）への参加者も多いです。

そうした活動実績を踏まえ、課題への対策として考えているのが、業務改善を踏まえた「AI活用セミナー」の開催です。議事録作成、データ分析、顧客対応の自動化など、業務フローに合わせてボトルネックをAIで代替・効率化するための講習会などを企画したい。当社でも社員全員にChatGPTの使い方を指導し、図面管理システムの類似品検索による見積りの効率化や作業時間の短縮を進めようとしています。多くの企業でも同様の経営課題を抱えていると思います。

そのほかには板金業界の地位向上をはかることを目指した活動を考えたい。板金業界は産業界を支えるサポートインダストリーとして発展、注目されるようになっており、板金業

界の地位向上をはかり、認知度向上を目指す取り組みが必要になっていくと思います。

#### 会社情報

会社名 株式会社 中野屋ステンレス  
 代表取締役会長 小坂 博志  
 取締役社長 小坂 賢一  
 本社 長野県伊那市西箕輪  
 2701-5  
 双葉工場 長野県伊那市御園8  
 電話 0265-72-4413（本社）  
 設立 1955年（1902年創業）  
 従業員数 38名  
 主要製品 半導体製造装置・検査装置、工作機械カバリー・  
 クーラントろ過装置・チップコンベア、食品機械、  
 建築金物、環境機器、サイン  
 URL <https://www.nakanoyasus.co.jp/>



CORPORATE WEBSITE

#### 主要設備

- 平板・パイプ兼用ファイバーレーザーマシン：ENSIS-3015R1 (3kW) +AS-3015G+STRI-3015
- パンチ・レーザ複合マシン：EML-3610NT+AS-510RM+ULS-510RM
- 自動金型交換装置付きベンディングマシン：HG-2204ATC
- ベンディングマシン：HG-2204、HDS-2204NT、RG-80、RG-35S×2台、SPH-30
- Vカットマシン：V-4012
- シャーリングマシン：M-1245、DCT-3065
- ファイバーレーザ溶接システム：FLW-3000ENSIS
- ハンディファイバーレーザ溶接機：FLW-300MT
- テーブルスポット溶接機：TSⅢ-NT
- YAGレーザ溶接機：YLM-500P
- 溶接ロボット×4台
- 3次元CAD：SolidWorks×2台
- 3次元ソリッド板金CAD：SheetWorks
- 2次元CAD/CAM：AP100×5台
- 建築・サッシ用CAD：TBCAD×3台
- 板金エンジニアリングシステム：VPSS 3i
- ブランク加工用CAM：VPSS 3i BLANK
- 曲げ加工用CAM：VPSS 3i BEND
- FLW用CAM：VPSS 3i WELD
- パイプインデックス装置用CAM：Dr.ABE\_Tube
- 生産管理システム：WILL



①パンチ・レーザ複合マシンEML-3610NT+AS-510RM+ULS-510RM / ②平板・パイプ兼用ファイバーレーザマシンENSIS-3015RI (3kW)+AS-3015G+STRI-3015 / ③自動金型交換装置付きベンディングマシンHG-2204ATCによる曲げ加工

## ■会員相互での取り組みを強化

——会員企業間で仕事の融通や情報共有が進んでいるとのことですが、工業会もこの取り組みを支援しているのですか。

小坂会長 信州ZukuDa'sメンバーの中ではLINEで図面を共有して、どうすればより良い展開や加工ができるか意見を言い合えるネットワークができたらしめるとい話も出ています。守秘義務により図面がオープンにできない場合もあるので課題はありますが、そろそろ会社の垣根を越えて協力し合う段階へ発展していくのかもしれない。

ただ工業会で仕事を斡旋するということまでは考えていません。会員相互での取り組みができれば良いと思います。

## ■AIを活用した工業会Webサイトの刷新を企画

——業務改善を踏まえた「AI活用セミナー」を企画したいとのことですが、ITの活用についてはいかがですか。

小坂会長 ITの活用という意味では工業会のホームページを充実させ、長野県の精密板金業界の技術や企業情報を発信していくことの必要性を感じています。

昔から長野県——特に岡谷・諏訪地域は精密機械産業がさかんで、「精密板金の聖地」とも言われた時期がありました。そうした加工技術・技能を継承する長野県に国内外から板金加工の仕事を集めていくためにも、会員企業の技術・技能の特徴を発信するためにもホームページの刷新が必要だと思います。特に近年はWebサイトの検索にAIが活用されるようになってきているため、発注企業が加工技術や技能の特徴から最適な会員企業を容易に検索できる仕組みを整えていきたいと思っています。

生成AIの活用に関するセミナーもマーケティングや顧客対応、生産管理、さらには人材育成の観点でのAI導入など、幅広いテーマが考えられると思うので、事務局とも相談しな

がら方向性を検討していきたい。

## ■景気回復が順調に進む

——景気の先行きに不確実性が増していますが、板金業界の今後の見通し、価格転嫁に関する考えをお聞かせください。

小坂会長 景気の見通しができない状況ですが、業況の改善が進んでいると思います。会員企業の多くが忙しくされています。特に半導体製造装置、工作機械、データセンターなどの仕事が順調なようです。価格転嫁に関しても「中小受託取引適正化法」(取適法)が2026年1月から施行され、取引の公正化と中小企業の利益保護が重視されたこともあり、コストカットのような話はなくなってきました。資材担当者からコストカットの要望が出たとしても、企業としてはコンプライアンスの側面で問題となって、企業イメージを損ねてはいけないという雰囲気生まれてきています。

## ■得意先企業・業種の移り変わりに柔軟に対応

——ここからは小坂賢一社長にお伺いします。御社の業況改善は進んでいますか。

小坂賢一社長 当社はトヨタ自動車のティア1企業から工作機械の周辺装置であるクーラントろ過装置、チップコンベア装置などの各種搬送装置、洗浄機などの板金製品の仕事を受けており、数年前までは売上全体の80%を占めていました。しかし、自動車の電動化にともなって、エンジンを搭載する車の生産が減り、自動車メーカーのエンジン増設投資が減少したため、クーラントやチップコンベアへの需要も減少しました。その結果、最近はこのお客さまからの受注が売上に占める割合は5%まで減少しました。

一方で、半導体製造装置、検査装置の仕事が増加し、最近では売上の20%を占めるようになりました。ダイシング



①曲げ加工された筐体製品／②4台の溶接ロボットも活躍する溶接工程／③塗装ブース

ソー向けの仕事は、当社が保有するENSIS-RIで加工した形鋼を使った筐体で、ファイバーレーザー溶接システムFLW-3000ENSISで全周溶接を行って納品しています。毎月の生産台数が1.5倍に増え、秋以降は2倍になると言われています。そのほかに半導体検査装置メーカーからも仕事を受注するようになりました。最近は工作機械カバー、食品機械などの仕事も増えています。

### ■来年以降は期待できる建築板金業界

——来年以降の業況についてはいかがでしょうか。

**小坂社長** 柱だった建築板金関連は、資材価格の高騰や人手不足などで工事が中断した関係で、仕事は減っていました。しかし、大阪のIR関連、東京駅前常盤橋エリアで進行中の「TOKYO TORCH」街区の目玉となる超高層関連の仕事が来年以降から2029年頃までは続くと言われています。そういう意味で建築関連は、今年是我慢の年になりますが、来年以降は期待できます。

また、車の電動化も見直しが行われるようになり、ここに来てクーラント、チップコンベアの仕事も少しずつ増えてきています。そうした意味では当社の受注環境は大きく改善してきています。今後は売上の分散化をはかることで特定企業、業界への依存を避けていきたいと考えています。

### ■若手社員が多く、デジタル化への対応力も高い

——大型製品の塗装・組立まで一貫対応する設備力を備えています。生産体制についてはどのようにお考えですか。

**小坂社長** 従業員数に関しては現状の38名で十分です。人手不足は感じていませんが、先頭工程のブランク加工については2027年5月にEML-AJeにリプレースします。どうしても溶接工程がボトルネックになるので、今後は協働ロボット

の活用を考えています。

私が34歳ということもあって、当社には若い社員が多く、平均年齢も37歳前後です。そのためデジタル化への対応力が高く柔軟で、専任のシステムエンジニア1名が中心となって製造DXにも取り組んでいます。社員全員が会社支給のタブレット端末かスマートフォンで自身が担当する製品の加工着手情報をガントチャートで確認、作業の進捗報告も入力するようになっていきます。あらゆる情報共有はオンラインで行っていますので、必要な情報のほとんどはスマートフォンさえあれば確認できます。「誰かに聞かないとわからない」といった情報が属人化された状態からは脱しつつあります。

あとは社員全員にChatGPTの使い方を指導し、図面管理システムを導入して類似品検索により見積りの効率化と作業時間の短縮をはかっています。また、紙の請求書をスキャナーで読み込んでAIにリスト化させるなど、主にバックオフィス業務でAIを活用しています。今後はさらに活用する分野を広げていきたい。



ワイドエリア3次元測定機